

京都・長岡宮・京跡

- 1 所在地 向日市鶏冠井町・森本町
- 2 調査期間 一九七八年(昭53)十月～七九年一月
- 3 発掘機関 向日市教育委員会
- 4 発掘担当者 山中章
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の時代 八世紀末
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

(一)長岡京跡左京第22次調査

本調査地は、長岡京左京二条二坊五・六町にあたる地点で、調査は、一九七八年十一月十七日から一九七九年一月三十一日まで実施した。その結果、長岡京時代の三本の溝と二軒の建物、一基の井戸を検出した。木簡を出土した溝は、左京第13次調査(一九七七)で検出したSD一三〇一の東30mの延長部にあたる。

今回も木簡の出土した溝SD一三〇一は、三条大路南側溝から心点距離で北へ約七三八mの地点に位置し、左京二条二坊六町と五町の間を東西に、西から東へ流れる幅2.9m～4.0m、深さ0.5mの溝である。

溝中には、二個所に橋状遺構SX二二〇九・SX二二一〇がある。第13次調査では、延暦六年の紀年銘のある木簡を出土する素掘

りの溝(第一期)から、同八・九年の紀年銘のある木簡を出土する側板を持つ溝(第二期)へと造りかえられたことが判明しているが、今回は、この側板を持つ溝を検出することができず、代わりにこの橋状遺構を検出したものである。

木簡は、この橋状遺構のものを含めて、合計一二三点出土した。(一九七九年二月七日から三月九日までの立合調査で、さらにこの東30mの地点から7点出土した。)

木簡は溝全域から出土しているが(図1参照、特に、両橋状遺構の間からは77点(72%)が出土した。内、Ⅰ・Ⅱ層からは55点(52%)が出土しており、土器・木器等もこの付近から数多く出土することから、溝を廃棄する時、この橋状遺構から一括して投棄されたことがうかがえる。

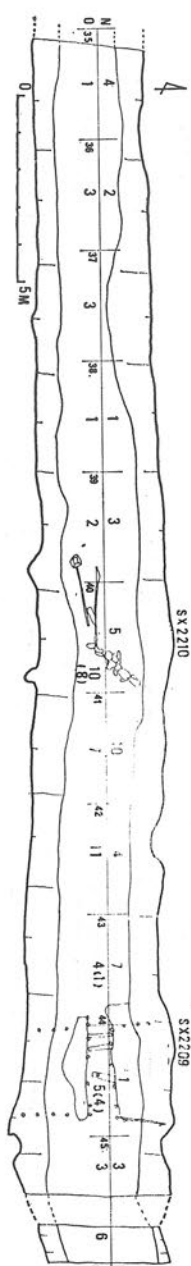
溝の埋土は基本的に四層にわかれる。このうちⅠ・Ⅱ層が第13次調査での第Ⅱ期、Ⅲ・Ⅳ層が第一期に対応している。層位別の出土数は、第Ⅱ期(Ⅰ・Ⅱ層)で81点(72%)、第一期(Ⅲ・Ⅳ層)で29点(26%)である。第13次調査では、第一期が10点(4%)と少ないのに比較すると、やや増加しているものの、今回もそのほとんどが、溝を埋立てるために廃棄されたものであることがわかる。

その他、形態の上では、今回出土の木簡は遺存状態が特に悪く、完形品の占める割合が13%と低く、そのほとんどが破損した断片(〇八一型式)であることに特徴がある(第13次調査では34%)。尚、同時に大量の墨書土器が出土したが、その主なものは、「大膳」「外記」

(二)長岡宮跡第87次調査

木簡は、調査地中央を北西から南東へ流れる幅10.0 m、深さ0.6 mの

8 木簡の釈文・内容



長岡京跡左京第22次調査木簡

- [illegible]

(35)	〔津力〕 四升米	55×22×3	Ⅱ	081	292	(47)	小綱年勝	(81)×(15)×3.5	Ⅱ	081	314
(36)	〔科力〕 優婆塞酒	392×26×4	Ⅱ	011	293	(48)	〔官掌力〕 一	(120)×(7.5)×2	Ⅲ	081	320
(37)	〔鮑〕 十一月廿日書生秦足	91×12×4	Ⅱ	051	◎297	(49)	〔上力〕〔品力〕 一	(48)×19×3	Ⅳ	019	321
(38)	〔夫力〕 給人四	92×18	Ⅰ	091	◎300	(50)	一	(61)×6×9	Ⅲ	081	326
(39)	×枝 椀古樽一枝 竿 桁三枝	(171)×16×5	Ⅰ	081	302	(51)	請	(34)×(21)×3	Ⅰ	039	328
(40)	×月十七日近〔衛力〕	84×28×4	Ⅰ	039	303	(52)	× 内六升寮出一人季之三人料	(168)×(14)×2	表	019	△332
(41)	勝	(181)×21×3	Ⅰ	019	△305	(53)	九月日	(53)×(10)×5	Ⅲ	081	333
(42)	〔讚岐国香河郡〕 讚岐万呂人万呂〔男力〕各一升四日	(143)×(24)×4	Ⅰ	019	△306	(54)	六用	(105)×(7)×5	Ⅰ	081	335
(43)	〔酒一缶〕	(8×16×3	Ⅱ	032	△307	(55)	足	(56)×20	Ⅰ	091	336
(44)	〔隔隔隔隔隔隔〕	307×17×3	Ⅱ	011	309	△310	鳥郡	(38)×20×2.5	Ⅲ	081	337
(45)	〔隔隔隔隔隔隔隔隔〕					(56)	藏藏藏藏	(248)×(16)×8	Ⅲ	065	341
	韩国	(64)×18×4	Ⅰ	081	△312	(57)	捌	(50)×(20)×3.5	Ⅰ	081	345
						(58)	物	(87)×14×5	Ⅰ	019	352

(60)

□□辺

(46)×(11) II 091 O353

(61)

□△物

(63)×(23) II 091 O354

(注) ○はSX2210、◎はSX2209、△は立合調査、表は表探を示す

遺構		SD1301	SX2209	SX2210	立合	計
層位						
I	褐色粘質土	50	0	2	3	55
II	淡灰褐色粘質土	17	3	3	3	26
III	暗青灰色粘質土	20	2	3	0	25
IV	褐色砂層	4	0	0	0	4
	表探	(2)	—	—	(1)	(3)
計		91 (2)	5	8	6 (1)	110 (3)

左京第22次調査〈層位・遺構別木簡出土数一覧表〉

長岡宮跡第87次出土木簡

「人物志三卷」

48×19×4 II 022

(山中 章)

9 関係文献

福山敏男「長岡宮跡出土木牌の『人物志三卷』について」
 (『日本歴史』三七二号一九七九年)



第2図 長岡宮・京木簡出土地点図